

令和7年度第4回仙北市総合政策審議会議事録

- 開催日時 令和7年12月5日(金) 13:30~15:50
- 開催場所 田沢湖庁舎3階 第1会議室
- 出席者 会長 白木 智昭(秋田大学)、副会長 佐藤 慎(一般社団法人田沢湖・角館観光協会)、門脇 由香子(社会福祉法人仙北市社会福祉協議会)、佐々木 和明(秋田おばこ農業協同組合)、市川 晋一(仙北市医療協議会)、門脇 富士美(一般社団法人 仙北市農山村体験推進協議会)、櫻井 誠(仙北市DX推進ラボ)
- 仙北市出席者 市長 田口 知明、副市長 赤上 陽一、総務部長 大澤 裕司、市民福祉部長兼福祉事務所長 草薨 秀典、観光文化スポーツ部長 田口 聡美、農林商工部長 門脇 朋宏、建設部長 三木 啓元、教育部長 阿部 聡、医療局長兼医療連携政策監 村瀬 克広、企画部長 齋藤 洋、企画部次長兼まちづくり課長 泉谷 衆、企画政策課長 高橋 康、企画政策課主事 長澤 結唯
- 審議案件 第3次仙北市総合計画(案)について

○泉谷企画部次長兼まちづくり課長

定刻になりましたので、ただ今から令和7年度第4回仙北市総合政策審議会を開催いたします。

本日の進行は企画部次長兼まちづくり課長の泉谷が務めさせていただきます。よろしくお願いたします。

案件は、第3回審議会に引き続き、令和8年度から4か年にわたる計画である「第3次仙北市総合計画」についてとなります。忌憚のないご意見をいただきますようお願い申し上げます。

本日の出席委員、市出席者は別添名簿のとおりとなります。

また、本日はより詳細な説明のため、各部局長のほか担当課長も出席いたしております。

それでは開会にあたり、市長の田口よりご挨拶申し上げます。

○田口市長

お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。

先日第3回を開催し、また第4回ということで、本当にご難儀をおかけしております。いよいよ第3次仙北市総合計画につきましても、皆様からご意見を賜りまして確定させる時期に近づいてきております。

前回いただきました様々なご指摘については後ほど回答をさせていただきます。どうか引き続き、率直に忌憚のないご意見を賜ればと思っております。

どうかよろしくお願ひしたいと思います。以上です。

○泉谷企画部次長兼まちづくり課長

ありがとうございました。次に、白木会長よりご挨拶をいただきたいと思ひます。

白木会長お願ひいたします。

○白木会長

市長よりお話がありましたとおり、先日長時間にわたってご審議をいただいたばかりですけれども、改めまして第3次仙北市総合計画案につきまして、ご議論を重ねていただければと思ひます。特に本日は、解説や説明よりも皆様からぜひご意見、ご要望、ご提案などを率直にお寄せいただきたいと考えております。

本日も長時間になりそうですが、どうぞよろしくお願ひいたします。

○泉谷企画部次長兼まちづくり課長

ありがとうございました。それでは議事に移りたいと思ひます。これ以降は白木会長に進行をお願ひしたいと思います。白木会長、よろしくお願ひいたします。

○白木会長

それでは、以降の進行を引き継ぎいたします。次第に従って審議案件に移ります。

本日の案件は、「第3次仙北市総合計画」についてです。本日の審議の流れについて事務局より説明をお願ひいたします。

○高橋企画政策課長

企画政策課の高橋です。よろしくお願いいたします。

審議の流れをご説明する前に、前回の審議会から修正のあった部分について説明いたします。

はじめに、18 ページになります。前回の審議の中で、幸福度全国 No.1 の定義が分かりづらいとのご指摘がありましたので、「市政理念」に、その旨を追記しております。

次に、臼木会長からの「チャレンジ事業をピックアップしたページを設けた方がよいのではないか」との提案を受け、チャレンジ事業ページを各部局経営方針の最後に追加することとしました。

次に、57 ページ総務部施策 1 について、KPI と KGI の関係性が分かりにくいとのご指摘がありましたので、説明文を追記しております。

次に、71 ページ市民福祉部施策 2 の KGI2 につきまして、自殺死亡率の説明文等を追記しています。詳細につきましては、後ほどご説明いたします。

次に、77 ページ観光文化スポーツ部 施策 4 についてですが、前回の審議会において、KGI と KPI との関係性が薄い施策があるのではないかとのご指摘を受けて、関係性を再度精査した結果、KGI2 を削除することとしました。

また、施策 2、3、4 の KGI1 について、2021 年度数値の転記誤りにより修正しておりますが、計画の数値算出の際には、正しい数値にて算出しておりますので、将来計画の数値算出に誤りはございません。

続きまして、本日の審議会の流れをご説明します。

はじめに、前回の第 3 回審議会において、委員の皆さまから頂戴したご質問につきまして、事務局より回答を報告いたします。

その後、回答内容も踏まえながら、「第 3 次仙北市総合計画（案）」に関する質疑に入らせていただきます。

なお、前回は 4 部局ずつに分けて審議を行いましたが、今回は全部局一括で審議を行います。

審議の流れについては、以上です。よろしくお願いいたします。

○臼木会長

承知しました。

○佐藤副会長

77 ページ観光文化スポーツ部 施策4について、KGI を削除されたとのことですが、どの部分を削除したのでしょうか。

○高橋企画政策課長

こちらは、グリーンツーリズム関係の施策となっておりますが、観光消費額について国内のものを掲載していたため、施策との繋がりが薄いのではないかとということで削除させていただきました。

○臼木会長

それでは審議に入りたいと思います。

はじめに、「第3回審議会での質問に対する回答について」事務局より報告をお願いします。

○高橋企画政策課長

第3回審議会で委員の皆様からあった質問に対する回答について、委員名簿順にお答えいたします。

はじめに佐藤副会長からのご質問になります。「人材マネジメントの推進におけるKGIとKPIの関連性が薄いのではないか。」という質問について、総務部からは「市民から「頼りにされる職員」を育成するため、専門職の人材確保や研修等を通じた人材育成を行っています。また、働きやすい職場環境の整備も欠かすことのできない要素です。人事に関する施策が成功すれば仙北市が良くなるという観点により、人材確保及び職場環境の整備の両立のうえで人材マネジメントの推進を行うにあたり、市民からの評価を受ける方法として市民意識調査の満足度を指標としています。」との回答です。

また、この質問に伴い、総合計画57ページの該当部分に説明書きを追記しております。

次に、「市民の幸福度における数値設定について、数値設定は妥当なものか。」という質問について、企画部からは「幸福度は、2022年41.2%、2023年：38.8%、2024年45.6%、2025年46.8%と推移しており、差分は順にマイナス2.4、6.8、1.2で

平均増加差を年 1.9 とすると、2029 年見込みは 54.4% となります。この数値の小数点以下を切り上げた数値 55.0% を設定いたしました。」との回答です。

次に、「移住定住の促進における KGI について、移住定住を勧めたい市民割合の数値設定は妥当なものか。」という質問について、企画部からは当該数値は、2022 年 25.6%、2023 年：25.2%、2024 年 25.6%、2025 年 26.9% と推移しており、差分は順にマイナス 0.4、0.4、1.3 で平均増加差を年 0.43 とすると、2029 年見込みは 28.6% となります。これに対し、移住体験事業など具体的な取組を始めた 2024 年、2025 年は上昇傾向が見えることから、2029 年の目標を総合的に判断して 30.0% を設定いたしました。」との回答です。

次に、「若者が働けるまち・挑戦できるまちづくりにおける KGI は社会増減数及び社会増減率でよいのか。人口に対する 20 代、30 代の構成率などが良いのではないか。」という質問について、企画部からは「63 ページ施策 1 の「移住定住の促進」は、ターゲットを若者に限らず広くとっており、県でも社会減を 3 年後 1,990 人まで減らすということを掲げていることから、これを KGI として採用しました。65 ページ施策 2 「若者が働けるまち・挑戦できるまちづくり」では、今後、社会増減を年代別に分析するなど、より細かい KGI の設定についても検討していきます。」との回答です。

次に、「市として目指す病院のあるべき姿は、どのようなものか。」という質問について、医療局からは「部の役割・使命にもあるとおり、病院事業の経営改革を推し進め、地域の病院として持続可能な医療提供を確保し幸福度全国 No. 1 のまちづくりに努めることです。病院は、患者が命と健康を委ねる場所です。今日来院していただいた患者から、また市立病院を受診したいと思っていただくことが病院と患者の信頼関係を築きます。職員一人ひとりが使命感を持ち、常に患者の声に耳を傾け、受付から帰宅されるまで患者の思いに寄り添ったスタッフ対応が満たす病院づくりが重要であると考えます。」との回答です。

次に、「外来の待ち時間が長いと感じる。受付してから会計までの平均時間削減などを目標として DX を活用して改善を図っても良いのではないか。」という質問について、医療局からは「待ち時間の短縮は患者満足度の向上を図り、患者確保の観点からも収益改善に繋がる要素となります。外来各ブロックの配置等、院内の構造上の問題点等も洗い出し、補助金等有意な財源確保を見定めながら DX 導入も含めた検討をすすめてまいります。また、検査を含むなど待ち時間が長引いている場合は、その時々状況を早め

にお伝えするなど、特にお声がけを徹底してまいります。」との回答です。

続いて畠山委員からのご質問になります。「自殺率における数値設定根拠」について、前回の審議会の中でもお答えしましたが、わかりにくい部分もございましたので改めて回答いたします。市民福祉部からは、「自殺死亡率は、自殺による死亡者数を、人口10万人当たりで示したもので、異なる人口規模の市町村等を比較できるように、実際の人数ではなく「10万人あたり」で算出しているものです。また、件数標記では、人口や自殺件数の少ない市町村では亡くなられた方の特定につながりやすいことから、率として示すことが一般的です。71ページ、市民福祉部施策2のKGI2を仙北市人口に換算して計算すると、2029年推計人口21,100人に対して自殺者数が4人の場合、人口10万人当たり換算では自殺死亡率18.9となる計算です。仙北市自殺対策計画でも同目標を設定しており、最終的には自殺者ゼロとなるよう事業を進めていきます。」との回答です。

また、この質問に伴い、総合計画71ページの該当部分に説明書きを追記しております。

続いて門脇富士美委員からのご質問になります。「職員の業務量及び適正配置、キャリアに合わせた職員の配置についての質問に対して、総務部からは「業務量に合わせた適正配置を念頭に人事配置しているが、現実的に職員の業務量に差があることは認識しており課題にもなっています。キャリアに合わせた職員配置については、メリットが大きい一方で長期化による弊害も存在します。ジョブローテーションなど異動ありの適材適所の確立を目指したい。」との回答です。

次に、「FITの観光客が増加し、仙北市や秋田県、日本という単位ではなく、東北という単位の意識で観光地を選定されている。他地域との情報交換など、連携強化が必要ではないか。」という質問について、観光文化スポーツ部からは「FITについては、点ではなく面での誘客という観点で、すでに観光協会や自治体で協議会等をつくるなど、他地域と連携する機会をつくっています。今後は観光事業者や実践者など、直接観光客と接する方々が連携していく機会をつくることで、お互いの地区の魅力も理解でき、次の訪問地として提案する機会も増えると考えられるので、情報交換だけではなく他地域の視察も含め検討していきます。」との回答です。

次に、「武家屋敷や着物体験など他地域と重なっている観光資源について、仙北市でなければならないものを作っていく必要があるのではないか。」という質問について、

観光文化スポーツ部からは「武家屋敷の黒塀や、着物体験はあるかもしれないが、武家屋敷通りの黒塀に桜や、黒塀に紅葉など、仙北市でなければ見られないものは既にあります。仙北市にある観光資源のその高い価値を認識し活用していくことで、誘客につなげていきます。」との回答です。

次に、「観光コンテンツとして食に対する要望も多いが、そうした要望に応える施策があってもよいのではないか。」という質問について、観光文化スポーツ部からは「第3次観光振興計画にも「本物の価値」の提供に向けて、仙北市のコンテンツの磨き上げが重要と記載しています。また、観光客のニーズを踏まえた提供も重要です。さらに、農家民宿にも聞き取りしたところ、日本人であれば「きりたんぼ」などの秋田の郷土料理、外国人であれば「おにぎり」や一般的な日本食を作る体験が求められると聞きました。農家民宿に限らず、自分たちにとっては当たり前な食文化体験を磨き上げ、観光コンテンツ化するよう取り組みをすすめていきます。」との回答です。

次に、「耕作条件の良い地域は充実した支援もあり農業者の方々もやる気にあふれ、人手が足りないながらも機械導入しながら耕作されている。しかし、上桧木内や桧木内、田沢など耕作条件が不利な地域では耕作放棄地が目立っているため、その土地の条件に合った園芸作物や6次産業化に向けた提案やアドバイスをいただきたい。」という質問について、農林商工部からは「仙北市では中山間地域を中心にそばの作付が盛んであり、各地区にそばの生産組合もありますので、委託栽培も含め第一に挙げられる作物です。土地利用型作物であり、面積の小さいほ場等の非効率さという不利条件はありますが、栽培が比較的容易な作物と言えます。その他の作物では、「小面積でも稼げること・省力化できること・高付加価値化」がポイントになると考えられます。最近では仙北市でも猛暑の影響がありますが、中山間地であれば、例えば寒暖差を活かしたブルーベリーやカシスなどのベリー類が適するとされています。観光摘み取りやジャムなどの加工と組み合わせることで収益性の向上が見込まれます。また、山うど・わらび・ふきなどの山菜類の半栽培、林内での原木しいたけ・なめこなども中山間地ならではの品目になるほか、ベビーリーフやミニトマトなど、小さなハウスやトンネルで栽培できる園芸品目も視野に入ると考えられます。6次化においては生産量の観点から、ジャム・乾燥品・味噌など、保存性がある小ロットで取り組める加工品が向いていると考えられます。また、これから栽培を始めることを想定すると、防草シートや簡易ハウス等での省力化、気象リスク対策、電気柵などの獣害対策を当初から組み込むことで、より継続しやすい

環境づくりができると考えられます。」との回答です。

最後に、櫻井委員からのご質問になります。「総合情報センターは、市役所業務全体のDXに係る業務改善などを統括的に行っているのか。それとも今後行う方向なのか。」という質問について、総務部からは「現在もDX関係は総合情報センターが統括しており、仙北市DX推進計画の見直しにも着手し、来年度からのスタートを予定している。」との回答です。

前回の質問に対する回答は以上となります。

○臼木会長

ありがとうございました。

前回各部局より、内容についてのご説明をいただいたうえで、限られた時間でしたがご出席の皆様から気がついた点やご質問・ご意見等をいただきました。そのご質問・ご意見に関して、担当部局から回答という形で今頂戴したところです。

前回は4部局ごとにご説明をいただき、それに対してご質問とご意見をいただく形で進めてまいりましたが、説明及びそれに対する受け答えも一旦終わっておりますので、本日は、特に部局ごとではなく、皆様からお気づきの点やご意見等について、改めてのご質問でも結構ですので、承ってまいりたいと思います。

順番に当てていくことも考えておりますが、ひとまず今の回答を踏まえて、何か確認しておきたいことなどございますか。

○佐藤副会長

部局の細かい施策以前に、基本的な部分の確認、すり合わせが必要ではないかと思っております。

まず、16ページの「VUCA時代をしなやかに乗り越えるために」というところを拝見し、違和感があります。表に記載されている4項目について、3つ目「複雑性」については、時代に即していると思いますが、それ以外の「変化のスピードが速く、予測不能な状況」や「未来の見通しが立てにくく、不確かな状況」、「情報が不十分で、解釈の曖昧な状況」は、果たして今の世の中はこのような認識でいいのかと疑問に思います。変化のスピードが速いのはその通りだと思いますが、一番下の「情報が不十分」という部分にも繋がりますが、現代の世の中は情報が溢れすぎていて、「予測不能な状況」で

はないのではないかと自分は考えております。

一番下の「情報は不十分」という部分についても、情報が多すぎて、解釈をどうするかというような状況ではないかと思えます。また、2番目の「未来の見通しが立てにくい」という部分についても疑問に思えます。昔に比べれば、いろいろな情報が入ってくるので、見通しは立てやすいのではないか思いました。これらの認識が違うので、市長はどう認識しているのかと思いました。

20ページの「7つのあるべき姿」の最初の段落に、「この数年、幸福度は順調に上昇してきました」と記載がありますが、この根拠は为什么呢。自分は、幸福度が全然上がっていないと捉えている市民の方が多いのではないかと思えますが、計画で幸福度全国 No.1 を謳っていますが、市民と市長や市役所の皆さん、議会の人たちの個々の感じ方認識が違くと、そこから全部違う計画になってしまうのではないかと思っています。

22ページの基本指標について、この根拠は先ほど回答のあった過去数値からの設計のとおりだと思えますが、市長は本当にこの数字を基本指標にすることに納得しているのでしょうか。過去の実績を考慮した数値設定だとしても、私の感覚からすると前回言ったようにすごく遅く、この数値設定で良いのかと思っている部分があるので、その数値を市長がどう思うのか、実績による目標数値だとしても、その数値ではなくこれくらいの目標にするべきではないかと市長が思うとすれば、それが基本指標になると私は思っています。その指標にどれだけ近づけるかっていうことを考えて実行していくのがこういう計画だと思うので、少なくとも民間企業や私の会社であれば、過去の数字はいつでもよくて、目標とするのは、ここまで到達したいという数字を出すのが基本指標だと思うので、そこは過去の数値はあまり関係ないのではないかと思っています。この基盤の考え方や数値をしっかりと決めてかからないと、その後各部局が実施する流れがずれてくると思うので、各部局の意見も聞きながら、ある程度かっちり固めてから部局経営に向かわなければならないと思いました。以上です。

○臼木会長

佐藤副会長からのご意見に対してご回答いただく前に、委員の皆さんからこの基本構想など第2章関連の部分で、今の佐藤副会長からのご意見も含めてご質問やご意見があれば一緒に出していただいて、そのうえで回答いただいた方が良くかと思っております

が、いかがでしょうか。

○市川委員

Ambiguityという言葉について、今ネットやAIを使って調べたら、この解釈も正しいですが様々な解釈があります。

先ほど佐藤副会長からもありましたが、「情報が氾濫しているなかで、例えばインターネットやSNSの普及により顧客ニーズが多様化しているために、ビジネスの成功要因を捉えにくくなっている。」ということで、この部分から考えると情報が不十分で解釈が曖昧な状態というのは間違った解釈ではないかと思います。以上です。

○臼木会長

前回佐藤副会長よりご意見があり、回答もいただいたうえで、今一度佐藤さんがお出しになった基本指標については私も頷くところがあり、従来だと基本構想があり、そのぶら下がりとして基本計画があるという別立てのものを一本化して、全てが一つの考え方でこの計画がまとまっており、意欲的な考え方と末端の計画まで全て筋が通っており、連動しているという筋書きで計画を見直していこうということで、すごく良い意欲的な取り組みだと思います。

ただ、一般的な別冊タイプの基本構想では、最後の部分に先ほどの22ページのような基本目指すべきところがあり、大まかな基本指標として仙北市には大きな3つの目標が掲げられておりますが、私はここの数字が高いとか低いとかというよりも、この数字をここで出さなければならぬのか疑問に思います。

それぞれの事業に個別の目標を立てていただいておりますが、この指標を出されてしまうとこの3つの目標を達成すると計画の目標は達成していると、どうしても初めて見る人や初めて聞く人は考えてしまうのではないかと思います。

個別の指標もリンクする形で提示されているので、あえてこれが必要なのかなというのは私も思っていたのですが、何度も佐藤副会長が聞いてくださっているうちに私も何となく思い始めてきて、こういうものは出すべきだというのが本来原則ではあると思います。数字を見せてもらい、エビデンスに基づいてこうなったと思いますので、満足度というものは大事だと思う一方で、この指標に収斂されてしまうとせっかくのプランが何かもったいないというか、これさえ達成すればいいのではないかという話になったり、

逆に、この3つを達成したから本当に幸せなのかということになってしまうようなところがあると思います。まだ案の段階ですので、どのように目標を出すということについて否定するわけではないのですが、03 までは何の違和感もないと思いますので、この指標についてご検討いただければと思います。

○田口市長

まず私から不透明な世の中と言ってしまうえばそうだと感じますし、先ほど佐藤副会長からも話あったように、逆に情報は沢山あるわけで、それも最もなお話だと思っておりますので、その部分については確認いたしますが、基本指標について、白杵会長の方からも話がありましたが、私の任期があと4年、私が佐藤副会長と同じ感覚でいくと幸福度の高い人の割合は100%を目指したいです。しかし、民間と役所の違いは、これを書いたときに、ではどのようにして100%を4年後に実現するのかという議論になっていって、本当にそれが実現できるかどうかというエビデンスを出さなければいけない。それを議会で議員の皆さんと検討していく必要があるというところの現実的な数字として市役所的には現実的だろうという数値が55%だと、両方の立場で見るとそういうふうに見えております。納得しているかどうかと言われると、4年間で8.2%という数値が何なんだと言われると私もそれはその通りだなと思いますし、今、会長がおっしゃった、この3つの数値を明確に出すということが、逆に言えばこの3つだけでいいのかという部分についてもおっしゃる通りだなと思います。

ただ一点、私が部局長に伝えているのは、往々にして市の計画は絵に描いた餅で終わるケースが大変多いということです。だから、どれを明確に目標としていくということ掲げないと本当に額に飾ってそれで終わってしまっている計画は山ほどあるので、今回統一してわかりやすく計画を一本化したのもそうですが、やはり職員の意識を明確に、こういうことを目指していくんだという部分での数字をここで用いているのは、私のその発言に基づいてのことだと思いますので、これについては私ももう一度再考する必要があるのかなと思います。

○齋藤企画部長

今回この計画を4年にしたというのは、やはり時代の移り変わりが早く、例えば2年目には一度大きな見直しをしたいという考えを持っております。例えば55%が2年目

に達成できたとすると、さらに高い65%といった目標を掲げます。

他の市町村でも、例えば滝沢市などは確かに建設的な目標をひとつ置いて、さらにチャレンジすべき目標というものを数値として置いている場合もありますので、先ほど市長が申し上げたとおり、そういったことも含めて検討させていただきたいと思います。

○佐藤副会長

今市長が自分の任期は4年とおっしゃいましたが、こういう計画はそういうことで作るものなのかどうなのかと市民目線からは思います。今の市長は田口知明さんで、もしかすれば3年後にもう一期やるとなる可能性もあると思いますし、もしかすればもうやめるかもしれませんが、市民からすれば、市長というのは市長であって、誰がやるかは別としても、市の10年後20年後こうあってほしいということで、幸福度全国No.1を今の市長が掲げている。あとは、4年では無理かもしれないけれども、そういう目標に向かってというところがあると思うので、そもそも4年だからどうこうではなく、永遠に自分が市長をやるぐらいの意気込みでやって、最初のこれからの4年間はこうすると、逆算していかなければ市民の人からすれば市長が変わればすぐ変わるのかどうなのかとなるのではないかと、市民の立場とすると釈然としないようなところもあるなと思いました。

また、19ページの幸福度は順調に上昇しているのかどうかについても教えていただきたいなと思いました。以上です。

○田口市長

実際現実的な話をすると、国も石破元総理から高市総理になって、石破元総理の目標に対して、高市総理がそれを踏襲してやっていくのかっていうところもありますし、実際私が門脇光浩さん3期の市長から市政を受け継ぎましたが、小さな国際文化都市という理念を掲げている市長と、今私は全く小さな国際文化都市という言葉を使っておりませんので、私の立場で言うと非常に何とも言えませんが、ただ、明確に今私は4年間の任期を持っていますので、自分の会社の社長任期は4年。ただ、もしかすれば雇用延長になるかもしれませんが、実際まず私が市長としていられる間違いのない4年ということで、今回4年の区切りで計画を立てたという面もあります。ただし、佐藤副会長のとおっしゃるとおり、幸福度全国No.1に4年間で到達できるのかと言われたときに、それ

が理念なのでそんな簡単なものではなく多分 10 年とかかかると私は思っているので、もしかすれば私が次の任期が来たときに、今の任期が切れたときに、まだ幸福度全国 No.1 になっていない、何が何でもこれを到達するために次もやらせていただきますと言う 4 年後の私がいるかもしれませんが、今現段階でそこまで明確にビジョンを描くのは政治家としてはどうなのかと思います。例えば 3 期で辞めると最初に言う政治家はいますが、最初から私は 3 期やりますというように言う政治家はいないのではないかと思います。次の動きまで想定しての計画というのは、全然おかしくはないと思っております。

○佐藤副会長

おっしゃっていることはわかりますが、いつまでやるかわからない中でも、仙北市をこうして仙北市民にはこうなってほしいという思いはあると思います。それはやはり今の 4 年というのは部局や具体的な施策として何をするかというところには出てきていいと思いますが、こういう基本のところはそうではなくて、時間がかかってもここに持っていくというものがあって、どこかのタイミングで新しい市長が前市長田口知明さんはこういうことやって幸福度全国 No.1 でやってきたなと振り返り、続けていく部分、当然駄目だから変える部分があるという考えではないかと思います。

○田口市長

私が支援をして後継として新しい市長が就任するパターンと、私も全面的に戦って私が敗れて、新しい市長が誕生するというパターン、いろんなケースがあります。本日は議員さんもいらっしゃいますが、市役所の中で政治家は私だけです。ですからやはり政治家としての面というのは、非常に何とも言えないところがありますが、佐藤副会長がおっしゃることはよくわかります。

○臼木会長

行政の計画としては、いわゆる民間でいう中期計画のような作り込みが一番ロングタームの計画で、市長さんや町長さんの任期とのバランスもあってそれ以上のもので中長期計画というと、先ほど市長がおっしゃっていた絵に書いた餅みたいなものになりがちですが、おそらく考え方に違和感があるのではなく、この紙面の制約、性格上でこうい

う書き方になるということもありますし、具体的にエビデンスというか数字を示すということは、今の行政の一つ目指していかなければならない良いポイントだと思いますが、佐藤副会長がおっしゃりたいのは、例えば10年後か20年後に100%を目指すとする、まずはベンチマークとして4年後このぐらい、何年後このぐらい、という何か坂道のうち、この計画はこの辺までを頑張るって必ずやりますといったものが見えると、なんか多分腹打ちできるのかなと思いますので、もしこの指標をお示しするのであれば、例えば見せ方を少し工夫していただいて、例えば15年、20年経ったら、みんなが幸せになるようなまちづくりに向けた第一歩です、という部分が少しわかると、まず4年で半分超えるところまで頑張ろうとか、次の4年でここまでいけるんだな、というのが見えると少し理解ができるのかなと思いますので、ご検討いただければと思います。

○齋藤企画部長

数字の推移が順調かという件につきまして、先ほど冒頭で前回の質疑応答の方にもお答えいたしました。2022年は41.2%、2023年は38.8%と下がりましたが、2024年は45.6%、2025年46.8%で市長任期の間は41.2%から46.8%になっているということで少しずつではありますが、上がっていることは上がっていますので、順調という表現をさせていただいております。

○臼木会長

門脇由香子委員より、ご質問やご意見ありますか。

○門脇由香子委員

これを最初に見たときに、素晴らしい計画だと思ったのですが、佐藤副会長さんのお話を聞くたびに、首がもげるほど頷いている自分がいたりして、先ほどの基本指標のところでは幸福度が高い人の割合、転入者が増えるとか仙北市に移住定住を人にすすめたいかという数値が伸びたら幸福度がNo.1になっていくのかと言われればそうだなと思いました。

やはり、キーになっているのが少子化や高齢化というところですが、婚活や妊活などの部分で、もう少し何かないものかなと思いました。

また、生まれてきた子どもさんを手厚くサポートする子育て支援については理解でき

るのですが、まず子どもさんが生まれないというところで、未婚率をもう少し下げる取り組みはどのようなものがあるのかなと思いました。

○白木会長

私から逆に質問なのですが、私は昭和の人間なので、どうしてもやはり結婚というものがあって、お子さんが生まれるみたいな印象をもってしまいますが、最近は多様なカップルもいらっちゃったり、あるいはシングルでお父さん、お母さんだけというケースもあり、おそらく事業のサポートに関しては、いろんな策が最近はややく出てきたと思うのですが、門脇さんがおっしゃっているのはその前の段階という話ですね。

○齋藤企画部長

結婚支援というのは度々議会の方でも議員さんの方にもご質問いただくお話ですが、確かに結婚しないと子どもが増えていかないということですが、白木先生の昭和の時代と言いますが、平成、令和となって結婚に対する価値観が違い、結婚を望まれる方に対しては、あまり大きな事業ではありませんが、結婚支援センターの登録費といったものを示させていただいておりますが、結婚することがマストなのかという考え方の違いがあると思いますので、なかなか難しい問題でこの問題を何とかしていかなければならないと思っておりますので、今後いろいろ検討してまいりたいと思います。

○白木会長

ありがとうございました。

市川委員、ご質問やご意見ございますか。

○市川委員

医療と福祉のことについて、私も市民福祉部に属しておりますが、市民福祉部のというのは、やはりゆりかごから墓場までの全てを担当していて、市の基盤というものです。

そのため、ほとんど従来の事業をそのまま継続することがもちろん基本となりますが、今回新たにチャレンジ事業として重層的支援事業が挙げられていますが、これはいわゆる従来の生活保護だとか、また今例えばおこめ券を配るなどいろいろな生活支援の方法を国も考えているみたいですが、そういった従来の政府の事業なのか、さらに支援を重

ねるものなのかということをお伺いしたいと思います。

○草彅市民福祉部長兼福祉事務所長

重層的支援というのは今までの生活保護だけにこだわったわけではなく、例えば住宅がない、相談するところがないというものを市役所の一部分だけが携わるのではなく、多角的に市役所以外の部分にも加入していただき、今では悩みが多面的で、一方向だけではない悩みが増えているというところに対して、市だけではなく、総合的に連携を取りつつ、例えば建設部や農林商工部とも連携しながら、包括的に悩みを取り除いていくという支援が重層的支援という形になっております。

○市川委員

例えば住宅に困っている人には例えば空き家を紹介するとか、そういうことでしょうか。

○草彅市民福祉部長兼福祉事務所長

市川委員がおっしゃる部分については、例えば空き家などの部分になるかとは思いますが、例えば自宅が改築もできずにボロボロになっていくなか一人で暮らし、生活費も足りない。その部分だけでなく、相談する場所がないいろいろな問題があると思います。

その部分について、住宅だけであればその部分は市営住宅などの紹介に繋げていくことになると思いますが、生活費が足りないことや障がい、介護の部分など悩みは多面的に起きておりますので、一か所だけでは対応できないものを、それぞれ担当する部署が全部集まって、最適な支援はどうであろうかということをお伺いしながら、悩んでいる方への手を差し伸べるという事業になります。

○市川委員

ありがとうございます。

さらに医療局の問題で、先ほど役割やコンセプトのお話をさせていただきましたが、新しく新規事業もいろいろ取り組まれており、4年前のこととはもう雲泥の差で、様々な医療政策が入っておりますが、例えば秋田大学の寄附講座の設置がありますが、例えば玉川温泉との連携でオンライン診療を病院として進めたいということはあるでしょうか。

また、いろんな事業がありますが、経済的にもかなり厳しい状態ですので、これらの事業は医療局全体のデータとして、その経費を削減できる方向に繋がるのか、それともさらに市民の利便性を図るって安心感を高めるということと、どちらでしょうか。

○村瀬医療局長兼医療連携政策監

チャレンジ事業等も含めましてこれまでにないような事業の費用対効果、今病院が置かれている経営状況等を踏まえてのご質問という形で受け止めておりまして、特に秋田大学との連携による寄附講座につきましては、やはり今後高齢化率がさらに進むことによって大変需要が見込まれているところであります。これは市川委員も十分ご承知のことと存じますが、総務診療の先生に着任していただいているということで、やはりこの病院全体でみると確かに費用がかかることではございますけれども、特に入院患者さんなど、患者さんの命を守るということとあわせて、病院にとっても、収益にも大変寄与する部分ですので、現在しっかり意思決定の状況を踏まえながら、新たな事業等につきましては、最大の要素に特に重きをおきまして位置付けているという状況となっております。

○市川委員

ありがとうございました。

皆さんにお話したいと思いますが、医者の数が少ないと、失礼な言い方になってしまいますけれども、売上が上がりません。だから1人辞めると、例えば何千万の減収となります。そのため、やはり医師の確保を秋田大学と連携して行う必要があると思います。

それから、総合診療科というお話がありました。戸建病院の規模ではいろんな専門医の先生を揃えることが難しいですが、重点的な病院に医師を配置することなので、病院の立場としては、むしろ総合診療科を充実させて、市民の医療レベルを上げて、例えば循環器だったら循環器科、消化器科などと回していくという意味です。

○臼木会長

せっかくの場ですし、医療関係者である市川先生に忌憚のないご意見をいただきたいのですが、各地で病院の再編はものすごく大きなテーマになっていて、合併して以降進んだ地域はほぼない状況かと思えます。今も比内の方の病院を診療所にする件について、

前の市長の時代に否決されたりしておりますが、この地域でも医療機関は大きく3つありますが、病院が2つあって、しかも広くてそれなりにニーズがあるということですが、今回私がすごいなと思ったのは、計画の中に医療の再編をもう明確にうたっていて、診療科の配置までかなり組み込んでいらっしゃる一方、公表すると何が聞こえてくるかという、うちの町はどうなる、うちの近所から先生がいなくなるのかという話ですが、どのように地域の方々に説明をすると安心してもらえるのでしょうか。

○市川委員

私の見識、考えですが、人口は減っておりますが、実は医者の数も開業医の数も減っております。どんどん開業医の先生は亡くなられて、後継者がいない。

医者になるには苦勞しますし、医者になったとしても地元に戻ってくる先生はごくわずかです。それはなぜかという、医者が専門性、例えば消化器が専門だとしたら角館町に開業して、それだけの患者さんをいっぱい集めることはできません。専門性を生かせないということです。例えば私は泌尿器ですけど、田舎にありますが、泌尿器だけではもちろん暮らしていけないので、何でも診ざるを得ないという立場があります。医療の基礎を支えている開業医の先生方が縮小しているの、逆に医療を保障、担保するというところで行政の仕事が増えてきております。

田沢湖にも2軒開業されている先生がいますが、1軒が辞めるか辞めないかということになってしまい、角館にも同じことがいえます。ですから、病院の役割は重要であるということ、ただ診療報酬もなかなか上がってくれないし、物価が全部高騰しているの、ますます経営が苦しくなっていることは事実です。

市立角館病院は公的には絶対必要だと思います。ただ、田沢湖に関しては現状かなり人口が減っておりますので、やはり人口に見合う形としては病院ではなくても、診療所にならざるを得ない形になっていると思います。ところが、県北でも市町村合併前はいろんな病院がありましたが、一つの病院に統括して他は診療所化しました。しかし、もともとのスタッフがいるわけです。看護師も検査技師もいるし、レントゲン技師もいると、そういう人たちはそのままいるので結局、診療所化したけれど、やはり赤字は続くということもありますが、いずれにせよ、民間の医者はひよっとするといなくなるかもしれない。そのためには、公的な医療機関がやっぱり市民の安全、医療を守るためには、今後はさらに重要になってくる。その中で何回も繰り返すにはなりますが、田沢湖病院

が病院として必要かどうかということはまた別だと思えます。

○臼木会長

私も学内の保健学科とか医学部とかの一コマですが、授業を持たされて病院経営なんていう授業をやったりしますが、皆さん多分ご存知かもしれませんが赤字の割合が大きいです。黒字にするためにはもう本当に人員カットや診療科カットが必要になり、コロナのときに皆さん少し状況ご存知になったかもしれませんが、ベッド数に比べてお医者さんの数が全然足りていない病院も結構多いです。ただ、我々素人は市立病院っていうと、ファミリーレストランのように何を頼んでも全部出てくると思いがちで、それがなくなるともう何も診てもらえないのではないかという不安があって、絶対にこの病院をなくさないでほしいというような運動が起きてしまい、複雑な過去の経緯もいろいろあってまとまらないという地域がどうも多いのですが、今の先生のお話のように地域の人口に応じた医療機関の能力を少し見直ししながら、スタッフの配置も考えつつ、でも別に病院をなくすわけではないというあたりをやはり丁寧に説明していくっていうのは大事かと思いました。私の質問には市川先生にお答えいただいたということで結構でございます。ありがとうございました。

○田口市長

いずれもはっきり言えることは、今の仙北市の2つの公立病院の財政負担は仙北市の本体が倒れるほど多くなってきていることは事実です。

このまま改革を進めなければ、夕張のように破綻するぐらいの財政負担が重くのしかかってきているという事実がありますので、これは当然市長として、本当に決意を持って今後改革をしていかなければ、この総合計画の達成云々の前に財政破綻してしまうというくらい厳しい状況ですので、市川先生のおっしゃっていただいたようなことも含めて地域の皆さんにしっかり理解をしていただいて、病院を存続させることが目的ではなくて、ここで安心安全な暮らしを営み続けられる環境を残すことが重要だと思います。間違いなく地域間で爆発しますので本来は触れたくないですが、触れないわけにはいかないので、ここについては経営健全化計画の策定委員会も今回開催されましたので、今後しっかり進めてまいりたいと思います。

○白木会長

ありがとうございました。

続いて、櫻井委員お願いいたします。

○櫻井委員

うまく言語化できるか自信がないのですが、全体が見えていて、おそらく既に基本となっているから書いていないのかもしれないのですが、デジタルを使って何をどうするかというところが少し見にくいなと正直思いました。全体的にこの計画は総合計画なので、おそらく市民の生活を良くする、状態を良くするためということで書かれているものだと思うのですが、市民に対するサービスを良くしようと思ったら、それを提供する側の業務効率などを上げていく必要があるかなと思っていて、その部分に対してどういう形でデジタルを活用していくかというのがあまり見えないなというのが正直思った部分です。

前回の質問のときに、総合情報センターの話をさせていただいたのですが、そのトップの方が全体的なデジタルの方向性を示す権限があるのか、指示する知識や経験があるのかというところがやはりまだ見えづらいというところがあり、もしご回答いただけるようであれば、教えていただきたいと思った次第です。

○大澤総務部長

総務部長の大澤でございます。

この計画の中には、具体的に DX についての記載は確かにございませんが、仙北市 DX 推進計画というのが令和 4 年度から立ち上がっており、庁内に向けての我々事務方が使うためのデジタル化のツールや市民向けの SNS での情報発信、オンライン申請について謳っておりますが、総合計画については私ども総務部の部局経営方針の施策の 5 に上げている状況でございます。行政手続きの DX 促進というのが項目としてありますので、ここに書いていることが、今のところ表面的には全てかと思っております。

総務部で DX については総括しておりますが、統括する人間が本当に熟知していると言われると、なかなか難しいところではありますが、統括している情報センターにつきましては、それぞれ資質を持った職員がおりますので、うまくリードしていくことが課題だと思っております。以上です。

○櫻井委員

どうしても表面上は市役所から市民へのサービスを DX 化するという形に見えてしまっておりますが、実際のところやはり自分たちが庁内の手続きをするときに紙で回すことはもはやだいぶ効率が良くないと正直思っているのです、その辺りもうまくデジタルを生かしていただけるように進めていただけると、自分たちの業務が早くなった分だけ市民の方の時間に割くことができるということも既に考えられていらっしゃると思いますが、そのように思っただければいいかなと思います。私からは以上です。

○大澤総務部長

ペーパーレス化についてはだいぶ進んでおりますが、どうしても我々職業柄デジタル化するために例えばいろんなシステムを入れるとなったとき、その後にかかってくる経費については少し気になってしまい、二の足を踏んでしまうということがありますので、そこをうまく財源的に調整して我々が効率よく仕事をして、さらに市民の皆様を提供していくサービスを充実していくということに向けて頑張りたいと思います。

○臼木会長

今デジタル化を推進するにしても、何か責任を持って指示をするような人についてご質問ありましたが、民間ですと最近海外は特にそうですが、役員というと財務担当役員や人事担当役員の中に同じレベルかそれ以上の担当でデジタル化や情報通信担当役員という方が取締役会には必ず入っていて、そういう役員を置かない企業は株主総会でもうとんでもないことになるような、日本でも徐々に今そうってきていて、そういう人を部長さんとして置くという趣旨でおっしゃったのではなく、どうしても抵抗が出たり、いろいろな調整をしなければならぬときに、責任を持って予算と権限と人事を持っているような人が指示をしていかないと、なかなかパソコンを配るって話と、いろいろな仕事をデジタル化していくということにはものすごい差があって、おそらく抵抗する人たちというのも市民という意味ではなくて、業務の中でその合理性を理解していただかないと行革みたいなことが進めにくい場合があるかと思っておりますので、きっとそういう方を配置するなりそういう方を想定して仕組みを作っていかなければ進まないのではないかということをおっしゃりたかったのかなと思っております。

私から逆に櫻井委員にお伺いしたいのですが、スタートアップなど何か新しい若い人たちが仕事を行ううえで、ご自身のご経験も踏まえて何かもう少しこういう後押しが必要ではないかなどあればちょっとお聞きしたいのですが、いかがでしょうか。

○櫻井委員

特にここ1年はやはり皆さん使ってらっしゃると思いますが、生成AIなどがもはや日常生活になったのではないかなと思いますし我々の会社ももはや自分たちで今まで工程内でやっていたようなプログラミングは一切せず、全部AIに書かせています。今まで何ヶ月もかかっていたようなシステム開発も1週間2週間でできてしまうくらいまでになっていて、おそらくこの後もう少し経つとそれが広がってきて、IT業界自体がだいぶ再編されるのではないかなと思います。

ただその分だけハードルも上がっていて、つまりAIへの指示を出し方さえ覚えてしまえば、自分たちでシステムをもう作れるので、やはり自分たちで作れるんだという意識の醸成と作れる人たちを増やす、それはエンジニアリングの勉強をしなくてもできるという部分をもう少し周知をして、我々もその役目を負わないといけないと思いますが、そういう場を作っていくということがすごく大事なので、そういった場をつくるというところのサポートがあると非常にいいと思います。

自分もやってみようと思う方がいるんじゃないかなと思います。個人的には私は元々仙北市のIT系の中で一番社員を抱えるということを夢に掲げておりましたが、そういう意味ではその仙北市の中でいろんな人が自分のシステムやアプリを作って、自分の生活に役立っていることが理想だなと思っています。

○臼木会長

はいありがとうございました。

それではここで一旦休憩といたします。

～休憩～

○臼木会長

それでは再開いたします。

門協富士美委員より、お願いいたします。

○門協富士美委員

前回の私の意見に対して丁寧にご説明いただきありがとうございます。

その中でもう一つ伺いたいのは、タウンミーティングの回数について3回という設定ですが、個人的にはもう少し多くても良いのではないかと思いますがいかがでしょうか。

タウンミーティングの回数について、3回と記載いただいておりますが、3回の理由は地域ごとに1回ずつ行うということでしょうか。

○齋藤企画部長

従来市民の声を聞く方法としては、重要な案件については説明会を都度行っており、また市民意識調査を実施いたしておりますけれども、このチャレンジ事業は、なかなかまちづくりなどこの市政全般に対して広く様々なご意見をいただく場として、令和8年度から始めたいと考えております。

今ご指摘がありました、3回という数字は門協委員のご指摘のとおり、田沢湖・角館・西木でそれぞれ1回ということを考えています。しかし、そうになるとなかなか細かい声も拾えないということもあると思いますので、少しずつ開催回数については検討させていただきたいと思います。ありがとうございます。

○臼木会長

農山村体験推進協議会ということで、私からお伺いしたいのですが、一番関わりがあるとすれば農林部系、そして観光部系とも関係したりするような要素もあると思います。

農家民宿の話など出ておりましたが、今お仕事をされている中で何かもう少しこういうことを応援いただきたい、もっとこうすればこういう体験をする方が増えていくのではないかなどお仕事しながら気づくこともあるのではないかと思います、何か直接関わらなくても結構ですので、日ごろ思っているところがあればお聞きしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○門協富士美委員

今は観光の方々とたくさん繋がりがあまして、ありがたいことに、市長はじめ市の

方々は、グリーンツーリズムなどのノウハウに対して力を入れてくださっていて、観光のところでたくさんグリーンツーリズムの把握という言葉が出てきたように政策の中でたくさん扱っていただいて応援していただいております。

さらに私は、このようなところで発言させていただけるくらいなので地域の方々ともう情報交換というか、意見についてはたくさん拾っていただいております、今の情報や思い立ったことはほぼ言わせていただいて、それを実現させて観光地に来ていただくかどうかはまた別ですけれども、自分が思ったことについては部長や課長にはすぐつぶやきのように言わせていただいております。

○臼木会長

私今県内市町村のいろいろなところと関わりがあり、藤里町が結構農泊に力を入れていて、なぜかという理由がいくつかありますが、ホテルや旅館とかはキャパシティにすごく限りがあるのと、藤里町に来て温泉付きのホテルに泊まりたいという人もいらっしゃいますが、せっかく来たらいろんな体験をしてみたいという方もいて、藤里町は農泊に結構力を入れていろんな補助金を使っております。藤里町の行政単位とこれだけ面積も大きい仙北市と同じように比較してしまうと、なかなか難しい部分もあると思いますが、今、外国人は特にそうだと思いますが、わざわざ日本に来てやりたいこと、日本でしか味わえないこと、例えば京都あたりでも普通の旅館、畳の上に布団を敷いて寝ることや浴衣を着て、下駄を履いてといったことを体験して喜んで帰っていくと聞きます。仙北市では何があるかという、やはり農業や林業、あるいはその地域に根ざしたお祭りやイベントを通じた触れ合いなど、そういうところが他の地域では味わえないって良さかなと思いますし、もっとすごいのは新幹線の駅が2つもあり、新幹線のルート上で動く人たちが多いため、そのような方々を受け入れられるような要素を提供していただいているというのは、すごくすごくいいことなので、もっともっとこの計画を通じて、外国人の方に限らず、地域外の人を呼び込むような仕掛けをしていくとまた違う観光地になっていくのかなと思いますが、何かネックとなる部分などありますでしょうか。外国人の方に限らないと思いますが、こういうものが必要だというものなどはありますでしょうか。例えばデジタル環境がやっぱりまだちょっと追いついてないとか、二次交通は多分間違いなくそうかと思いますが、一番気がつくようなこと何かございますか。

○門脇富士美委員

今先生がおっしゃったように、日本と言った表現が正しいかどうかわかりませんが、本当の日本人、リアルな日本人に接して会話をして楽しんでいくということがおそらく外国からのお客様にとって一番心に残ることでもリピート率が高くなる要素でもあると思うので、そういうことについても本当に仙北市の観光の方々はよくご存知で、いろいろなアドバイスは私覚えて実践する側ですので、全国的に見てもこの地域は記載のとおり先進的な取り組みをされてきていて、日本のその次にどうするかというぐらい考えていかなければならないのではないかなというところなので、心強いです。

確かに実践者の高齢化は進んでおりますが、最近は個人的には悲観的な要素ばかりではなく、孫ターンだったり、息子がリタイア後帰ってくる、早期退職して戻ってくるという例もありますし、やはり今一緒に住んでいる東京の家族が次の世代というのも何となく見えている部分もあるので全部が比較的高齢化ということで悲観的な部分ではないなと思っています。

○臼木会長

ありがとうございました。

それでは、佐々木委員よりお願いいたします。

○佐々木委員

この資料を市民の方も見るとすれば、私も年齢が上の方になりますが、若い方は内容が入っていくと思いますが、横文字が非常に多いかなと感じております。注釈など目立つような形で記入されておりますので、読み進めていくとわかるのですが、そういう点ではかなり横文字が多いなということで、できる・できないは別としながらも日本語の方を目立つようにして、市民の方にもわかりやすいようにした方がより資料が生きてくるのではないかなと感じました。以上です。

○臼木会長

佐々木委員のお仕事柄、農林商工部の施策に関して気になった点などございますか。

○佐々木委員

クマ被害がかなり出ていますが、今年は大型のイノシシがかなり多く、山岸のところ平坦部でも結構イノシシが中に入って暴れており、収穫できなかったというところもあります。そういう点では非常にそういう獣類がかなり多くなって、山岸に誰も住む人がいなくなったり、平場でも結構空き家が目立ってきていて、そういう影響もあり夜中電気がつかないということもあってだんだん里に来ているのではないかなという感じがします。

そういう点では農林商工部の方でも予算を見ておりますけれども、ハンターの高齢化が進んでおり、近所の方でも体調崩してやれなくなった方もいますが、最近テレビや新聞でも秋田県や他の方でも。職員でハンターを採用するというような話も見ますので、こういう状況が今年で終わればいいのですが、この状況がずっと続くようなことになりますと、そういった職員でハンターやれる方を採用するといったことも必要ではないかなと感じております。

非常に今年はかなり農産物水稻等でもかなり被害があったということを知っておいてもらいたいと思います。

○臼木会長

1個1個具体的な施策を論ずる場ではないのですが、昨今クマはもちろん全地域的に秋田県内で被害が出ていて、人への被害もさることながら今伺ったとおり、クマあるいはイノシシなどの農作物等への被害もあって、かなりの農家の方、林業の方は苦勞されているというお話をよく伺いますが、ガバメントハンターの話も人の話になるとなかなかすぐにこういう計画でということも言いづらいと思いますが、獣の被害に対する対応について、今後こういった感じで行っていくか現時点でお話いただける範囲で結構なのですが、今のお伺いに対して聞かせていただけるとありがたいですが、いかがでしょうか。

○門脇農林商工部長

ただいまの鳥獣被害の件につきまして確かにイノシシ被害も今年度昨今かなり増加しております。

前年度あたりから電気柵等の補助事業もやっておりますが、なかなかやはり水田を全

部電気柵でやるということになると、広範囲でなかなか手法的にやらない農家さんが多いですが、確かに一人一件あたり10万円という制限はございますが、数年かけて徐々に対策を講じていただくという方もいらっしゃいますので、周知の仕方を考えていかなければならないのかなと思います。また水田について畦畔が掘り起こされるということもございますので、自然災害の一環と捉えまして復旧事業に対しても何らかの手当をしていかなければならないと考えております。

新聞報道等でガバメントハンターということが言われておりますけれども、仙北市の場合、猟友会のメンバーも若干ではあります但維持している状況でして、陸上自衛隊の支援ということもございましたけれども、猟友会の方々で対応していただいているという状況もございますので、ガバメントハンターについても、猟友会との連絡調整役と捉えておりますので、まずは猟友会メンバーを増やすということを念頭に計画にも盛り込んでいるところであります。以上です。

○白木会長

繰り返しのようになってしまい恐縮ですが、具体的な政策や事業を論ずる場ではないのですが、今後被害が減れば良いですが、いろいろな地域の状況を見る限り、こういった被害がもう本当に自然災害レベルになってきている地域もあるように伺いますので、今農林商工部さんからお話があったとおり、ケアをしていくというお気持ちを示していただくだけでもずいぶん違うのかなというふうに思います。

私からも少し質問や意見をお話させていただければと思います。

各種調査というところがありまして、いろいろな現状分析を丁寧にされています。前回も市長からありましたが、仙北市の財政の状況ですね。私経営学というのは大学でお話しますが、普通の会社であれば、ピンチではなく危ないというレベルをさらに超えるぐらいの感覚で見ないといけないだろうなと思います。住んでいる方たちを驚かせるわけではなく、現状認識として、財政に余裕があるっていう感覚で議論をするレベルでは決してないなというのを改めて指標を拝見して思いました。

特に経常収支比率がとてつもなく、経常収支というのは問答無用で出さなければいけない支出が全体のお皿の中でどのぐらいあるかというのを示しますが、お皿からはみ出ている状況ということは、この文字どおり取ると、使いたい自由なお金が一切なく、電気ガス水道料金を払って、食べるものを払ったらもう何も無いというレベルかなと思

ます。何もしなくていいとか何もできないということではないですが、まず何を切り詰めるのかという議論がすぐに出てきますが、両方やらなければならないレベルかなと率直に感じております。

個別の部局の計画には両方ともしっかり記載されていて、例えば職員の数をあまり極端な数にしない中で、業務効率を上げるにはDX化していくことや役所の配置を少し考えていく、また病院の統廃合などで効率化を図っていくという部分はきちんと記載されておりますが一方で、入ってくる方については踏み込まないといけないレベルではないかなと個人的には思います。

例えばふるさと納税があるじゃないかということをおっしゃる方がいらっしゃいますが、極めて神頼み的なところがあり、いいときはいいですが、ライバルはいっぱいいて、固定客がいるわけでもなく、返礼品のレベルを上げると確かに集まりますが、コストがかかるので、100万円もらうと100万円手に入るわけではなくて、途中の介在する業者さんに払ったり返礼品で払っていくと半分いくかみたいな感じになってしまうところもあるので、ふるさと納税はやるべき努力としてはありますが、やはり正面から何か増収を増やす努力も必要かなと感じています。

この地域は観光地でもあるので、何か観光に絡む法定外目的税のような、最近の流行りでいうと宿泊税みたいなものが地域で検討されておりますが、やるかどうかは別として検討には値すると思います。誤解が多いですが、ここに泊まるとお金を取られるみたいなことで市民から巻き上げるのかというようなことをおっしゃる方がいらっしゃいますが、基本的には遠くから来て仙北市で泊まった人にお金を払っていただくということで、お金を地域の観光をより良くするために使ったりする目的税ということになるので、市民の負担を急に増やすという話ではないですし、実際世の中で課税されている金額で見ると100円とか200円とか数%というレベルなので、そんなに大きな額ではないのですが、どんな税金を入れるとなっても皆さん大体反対されたりするので、丁寧な議論と決してこの地域に来て欲しくないという意味の税金ではないという丁寧な説明は、導入のタイミングで必要かと思いますが、今の仙北市さんの財政状況と今後の成り行きを見る限りで言うと、そういうところに踏み込んでいく時期ではないかなと思うかなり切迫感のある状況かなと思います。

せめてその法定外目的税を議論するという部分、やるかやらないかは議会や市民とのディスカッションの中で考えていくしかないと思うので、それを皆さんでご議論いた

くと思いますが、検討しないわけにはいかないレベルかなと率直に指標を丁寧に見させていただくと感じました。この計画の中でメッセージするかどうかはさておき、4年後、これが劇的に改善しているかどうかは、出る方を削るだけでは多分難しいのではないかなという感じが率直にしているので、ここに盛り込むかどうかは別にして、ご検討いただくということが必要かなと感じました。

もう一つが、市長がおっしゃっていた幸福度全国 No.1 をどういうふうに捉えるのかというところですが、幸福度って住民の方の満足度、民間でいうと、顧客満足度みたいな部分かと思います。企業も顧客満足度を上げると必ず経営計画に書きますが、何の指標をもって顧客満足度を高めるのかと言われるとどんな会社もこれですっていうのはないです。売り上げが上がったことや自社の商品がアンケートで必ず上位に上がっている、女子高生の間で流行っているなどいろんな要素を組み合わせると満足度が上がった、下がったという言い方をするのだらうと思います。

まして行政で幸福度、満足度といったときに、なかなか捉えどころがない、いいよなところは確かにありますが、住民がハッピーになるということに正面から取り組むというのをこういうきちんとした計画でメッセージするというのはとってもチャレンジングというか大変だと思いますが、とってもいいことだと思います。橋をかけるとかここに道路を通すということではなく、みんながハッピーになるには、それぞれの仕事をどうすればいいかという目線で事業を洗い直ししているという点ですごく意欲的な計画だなというふうに感じています。

一つ一つの事業の達成度というのは確かに進捗管理が必要ですが、4年後にトータルでこの満足度のアンケートの結果が目標値を超えるような取り組みをぜひ期待したいなと思って、今回ご説明を聞いたり、ディスカッションに参加させていただいておりました。

それでは、残った時間で委員の皆様より、もう少し確認したい点などございますか。

○佐藤副会長

市民の意識調査をして数字をまとめるのはいいことだとは思っておりますが、達成基準の KGI として市民意識調査における満足とやや満足の割合を持ってくるのが非常に怖いと自分では思っています。

この仕組みは市役所の職員の人たちが頑張っていて良くしようって言われていることの

努力の結果をわかりやすく成果として出すことだと思うので、そこで意識調査のこのばんやりしたところだったり、29ページの各種調査の概要というところにも書いていますが、わからないと答えたり、そして人は変化を拒んだりするので、変化を促すようなところへの回答を良しとしない傾向があると思うので、この意識調査でKGIを測ることは極力避けた方がいいのではないかと思います。

例えば57ページの政策の背景や解決するための手法及び事業という部分は、自分の立場から突っ込むことではないだろうなと思っています。それはやはりずっとその内容に精通している市役所の皆さんが、これが必要だと思って施策を作っていると思いますが、ただ自分がチェックする役割というのは、これがうまくちゃんと結果として出て、それが数字でちゃんと終わったときに、途中で振り返ったりチェックするときにやりやすくなるようにと思って考えてのこれからの発言ですけれども、このKGIのこの数字がやはり自分は別の単位の数字でやっていいのではないかなと思うのと、事業のところ①人材確保、②人材育成、③職場環境の整備、④女性活用の推進とありますが、先ほど白木会長からもあった財務内容を良くしていくためには、企業的に考えると、人材確保というのは民間だったら社員を増やす。人材育成は社員ひとりひとりのスキルを上げる。①×②が会社のポテンシャルになるという考え方です。それは市役所もちろん一緒だと思います。人材確保が必要だろうなと思いますし、また採用人数の単位は多分何人になると思います。人材確保となると2025年に何人増やし、退職などいろんなことがあると思うのでそれを見越して2029年度末には職員が何人いなきゃ駄目だという数字が目標数値であればいいと思います。

また、②の人材育成について、研修者数を増やしたことで測ってこれないと思うので、人材育成をどのように図るというところを何か考えているとすれば、そちらを書いていただきたいですし、例えば、うちの会社であれば、技術資格を持っている技術者を増やさないと商売にならないという単位があるので、来年その資格を持っている人が退職するからそういう人を補充しなければならないので育成していくなど、そういうことをやって①と②をかけたとき、例えば人材が今100人いて、スキルを1だとすると、 1×100 でポテンシャルは100です。それは10人増やして100人の1のスキルを2割増しにすると 1.2×110 で132人になるとか、その数字が正しいかどうかは別としても、そういう考え方で、仙北市に必要なポテンシャルに対してどう手を打っていくかということを考えてほしいなと思っています。

あと例えば消防団員の維持についても、募集活動1回2回ではなく、何人増やすかということだと思うのと、例えば60ページの下段の消防団員数の維持について、2025年の404人と2029年の404人、数是一緒ですが構成比率が多分変わってくると思います。高齢なので引退するという人も増えてくると思うので、そのときに20代の人を団員として募集できるのか、50代の人を募集できるのかという水準があると思うので、そういうところまで考えて、それがわかるようにやってみたりする方がいいのではないかと思います。

あと60ページ一番下の災害ボランティアを登録募集回数についておそらく災害ボランティアの人数が必要だということですが、60ページの一番解決しなければならない課題は災害ボランティア登録者数だとすると、これは募集回数ではなく本当に登録者数の実数を今何人、過去何人、今後何人にしますという数字を書いた方がいいのではないかと思います。

また、61ページ一番下の公共施設の延べ床面積の削減について、ここはちゃんとした平米の単位で出ておりますが、KPIでは何件になっているので統一したほうが良いのではないかと思います。また、公共施設の延べ床面積が仙北市全体で何平米あるのかという数字に対して、これはゼロにするわけにはいかないと思うので、現状考えられる数字が仙北市の公共施設の延べ床面積の理想が今100に対して今150あるとしたら、その50を何年かけて減らしましょうという考え方でやっていくと、成果が出やすいのではないかと考えております。

また、総合計画と部局経営方針シートはただ様式が違うということなのでしょうか。

○高橋企画政策課長

総合計画では4年の計画を立てており、それを1年ずつ切り出したものが部局経営方針シートという位置づけとなっております。

○佐藤副会長

ありがとうございます。

長くなってしまいましたが、そういった数字や単位の使い方、実際やっていったときに効果が見えやすいようになると思うので、全部局のシートに多分まだ調整できる部分がいっぱいあると思うので、そこを修正してもらえれば働く、実行する職員の皆さん

が使いやすいものになるのではないかと聞いておりました。以上です。

○大澤総務部長

例えば先ほど佐藤副会長よりお話のありました部局経営方針シートですが、こちらには関係計画等という項目があり、例えば人材育成の関係では人材育成方針がございます。そういうものをもとにして総合計画に書き出しておりますが、なかなか書ききれない部分もあったりするということはまずご理解いただきたいと思います。当然これから表現をどういうふうにしていくかということは考えていきますし、先ほどお話のありましたように単位については間違いもありますので、そこはわかりやすい形に訂正させていただきたいと思います。

消防団につきましてはやはり条例上定員が630人のところ、今404人しかいないということでこれから増やせるかどうか、そこは切実な問題でありますのでやはり考えていかなければならないということになります。

いずれその見せ方として一応裏付けとなるものはありますので、あとは見せ方を丁寧にやっていきたいと思います。

逆に、先ほどのお話にもありました市民意識調査を指標にししないとすれば、逆にこの場合、人材マネジメントの場合、どういうKGIにしたらいいのか逆に教えていただければありがたいです。

○佐藤副会長

人事評価や人事評価システムの中で力量評価というものがあり、若い人たち例えば入社3年目まではこれができるように、5年目のときはこれができるように、といったように上になればなるほど簡単にはできないその部署で必要とされるものを○×で全て評価をしております。人材マネジメントの評価として、今その部署の平均の○の数はいくつあるのか、賞与などと連動するような仕組みがあり、そのスキルアップがちゃんと出てくるようにして、その資料を月の初めに上司には連絡をして、未までにはここまで行けるように頑張ろうと伝えながら、途中の経過を毎月チェックするようにしております。

○大澤総務部長

ありがとうございます。

○佐藤副会長

一応 DX もやろうと言って普段溶接をしている制作メンバーが、19 歳から 50 歳くらいまでの 10 人くらいのメンバーですが、DX のアプリを 1 年半くらい作っていて、最初に作って、改善してもう使わないというものもあり、今 3 分の 2 から半分くらい稼働しております。

○臼木会長

ありがとうございました。

今あちこちで問題になっている話で 91 ページのインフラですが、特に老朽化した上下水関係の配管や道路橋の老朽化したものの維持更新がすごく今問題になっておりますが、一方で水道は別会計になっていて料金徴収をするので、料金を本当は上げなければいけないが上げにくかったり、水道なら例えば上水道を維持するために必要な料金と、その回収率を上げるというのはもちろんとして、料金を上げて、その料金収入の中から維持更新費を生み出していくというのが、本来の建前ですが、それを全部料金で反映させてしまうと今度は払えない問題が出てきたり、料金を急に上げてどうするのかというご議論も出てきますが、一方で、その料金徴収にかかるコストも、ケアの面積が広いですと結構大変だったりします。ここに書いてあるとおり未整備の地域に普及させるということももちろんですが、老朽化対策やなるべくそういった維持費コストを下げるために遠隔で料金の管理ができるようなシステムを導入していくということもかなり重要になってくると思います。

東京あたりで水道管が破裂してとんでもないことになっていますが、東京に限った話ではなく、おそらくどの地域でも起こりうることなので、この辺への目配りをこの計画の中に盛っていただいているというのは、とても重要だなと拝見しておりました。

問題は、維持費を捻出するために料金を変えていかなければいけないですが、よくあるのが合併する前の料金体系を引きずったまま 10 年、20 年経ってしまって、市の中の料金を均一化することに苦労している市町村がまだいくつかあったりして、私もその均一化を検討する会議の座長なんかをやった経験もありますが、なかなか料金を頂戴

するにあたっての苦勞もあり、結局足りない分は財政から持ち出しています。本来はこの水道会計で自己完結しなければいけないのに、病院もそうですが、自己完結できるのが理想だけど、いろいろなものがあふれていて、それを何とか一般行政の費用で繕ってきたがもう限界になってきていると、効果的にやっていくためにDXの取り組みも重要で、一つ一つ丁寧に支障のないように、住民サービスが低下しないようにするということと、もう一つはやはり適正に料金を取っていくことなど、踏み込んでいかなければいけないところがあり、そこがやはり部局の皆さんのお仕事の腕の見せ所というか、丁寧な説明で、住民の理解を得ていくということが大変なところですが必要になってくると思いますが、なぜと言われたとき、必ずここに帰ってくるということができるといいう作り込みになっているのはすごくわかりやすいし、いい資料になっているなと思いました。

全体計画の中でインフラ整備もちゃんと位置づけておくというのは、今後はとても大事になってくると思うので、こういうのを抑えてらっしゃると、今後実際の事業を行っていくうえで重要だというふうに感じたところでございます。

他に皆様からございますか。

○佐々木委員

市全体の職員の正職員、再雇用の人数、それから現在長く休んでいる正職員の人数を教えてもらいたいと思います。長期休養している方もいれば当然業務のシェアをし合うことで業務が効率化しないということもありますので、教えていただきたいと思います。

また、インターナショナルスクールについてですが、建設に向かって市の財産の売却なども進めているというような記載がありますが、売却する場所などのめどが立っているのか教えていただきたいと思います。

そして、観光文化スポーツ部ですが、スクラップアンドビルドということ意識して努めるとの記載がありますが、現在行っている中で将来も含めて、現在廃止しようと思っているもの、将来新しく取り組んでいきたいというものがあれば教えていただきたいと思います。以上です。

○大澤総務部長

職員の人数でありますけれども、10月1日現在でお知らせいたします。

市全体で1037人の職員が在籍しております。この内訳ですが、市長部局と病院の2

つに分けますが、市長部局の正職員が408人、会計年度任用職員さんが261人、教育委員会等も含めて669人でございます。

続いて病院事業です。これは正職員が255人、会計年度任用者113人で、合計368人となっております。両方合わせると正職員が663人、会計年度任用職員が374人で合計1037人となります。

このうち育休や産休につきましては、市長部局が6人、病院事業が7人、合計で13人です。病休については市長部局で6人、病院事業で1人、合計7人となっております。

当然限られた人数で業務を執行しておりますが、当然病休で1人休むことで休む期間が1ヶ月、さらに延長があって2ヶ月3ヶ月ということもありますので、そうすると現状は人事異動で対応するしかないという状況になっております。以上です。

○齋藤企画部長

インターナショナルスクールの市有財産の売却ですが、場所は確定しており、8月31日で営業停止しておりますハートハープの建物、隣接する土地合わせて3万平米ぐらいですが、相手方と交渉が入っております。

相手方についてですが、KBH ジャパン株式会社というシンガポールにあるKBHという会社の日本の子会社ということで、9月には日本人を採用して、日本人の方がそれぞれの交渉の場に立っていただいているということで、相手方も確定している状況です。以上です。

○田口観光文化スポーツ部長

スクラップアンドビルドに関してですが、常に新しい事業を実施していかなければいけないかどうかという検討と、今まで実施していたが効果はどうか、そしてここで事業を取りやめて影響はないかなど職員は意識するように努めることを重要としております。

実際にやっているかどうかについて、例えば交流デザイン課では交付金の活用を積極的に進めておまして、期間が限定しておりますので、常に計画段階から3年後にはどういった方向になるのかということを検討しながら進めております。コロナ禍には受け入れ体制の整備を行い、令和7年からは新しく、受け入れ体制ではなく商品造成など取

り組むように努めております。

○臼木会長

ありがとうございました。

他にご質問やご意見はございませんか。

無いようですので、以上で質疑を終了いたします。本日いただきましたご意見・ご指摘につきましては、事務局において内容を精査し、今後の計画案の修正・取りまとめに反映いただければと思います。

それでは、以降の進行を事務局にお返しします。

○泉谷企画部次長兼まちづくり課長

臼木会長、ありがとうございました。

これで本日の総合政策審議会の次第はすべて終了いたしました。

今後のスケジュールについてご説明いたします。

まず、本日いただいたご意見を踏まえたうえで、12月17日に開催される議員全員協議会において、議員の皆さまへ第3次総合計画（案）をご報告いたします。

その後、1月6日から1月20日までの期間でパブリックコメントを実施し、市民の皆さまから広くご意見を募集いたします。

そして、パブリックコメントの結果を整理したうえで、次回2月13日開催の第5回審議会において、改めて総合計画の内容をご報告し、委員の皆さまにご確認いただく予定としております。

その後、再度議会への説明を経て、成案となります。

以上が今後の主なスケジュールとなりますので、引き続きご協力のほどよろしく願いいたします。

○田口市長

皆様、ご審議大変ありがとうございました。

先ほど臼木会長からご指摘ありましたとおり最大の課題は財政になります。経常収支比率が100%を超えているということで、私の市長4年間で政策予算はゼロです。自分がやりたいと思うことに対して予算を執行できない市長であります。大変恥ずかしい

話ですが、冒頭に前回の私の説明の中で話したとおり、やはりまず病院のこれからの改善が必要だということが大きいです。

また、先ほどこれも白木会長の方から指摘ありました上下水道につきましても、有収率が50%ということで、半分が漏水しているという、老朽化が非常に多いという状況の中で、上下水道の価格については今値上げをしております。3ヶ年にかけて値上げをするということで、これはインフラの維持には不可欠だということで、市民の皆様には痛みを伴うことにはなりますが、そちらについても議論しているところであります。

学校の統合や老朽化した公共施設の部分もありますし、少子高齢化ということで、本当に問題山積であります。本日皆様からいただいたご意見をしっかりこの総合計画に反映させていただいて、特に佐藤副会長の方から指摘のあったKPIをみんなが共有してこれに向かっていくということがわからなければ、単なる計画で、先ほど言ったとおり絵に描いた餅で終わってしまいますので、具体的にこのKPIを達成するためにこれから何をしなければいけないのかというところを職員ひとりひとりまで落とし込んで、確実にこの総合計画が前に進むように、私も市長としてしっかり取り組んでまいりますので、引き続き皆様の方からは、ストレートな厳しいご意見を賜ればというふうに思っています。

本日本当に長い時間でありましたが、貴重なご意見を賜りましたこと心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

○泉谷企画部次長兼まちづくり課長

それでは、閉会にあたり赤上副市長より挨拶申し上げます。

○赤上副市長

本日も長時間にわたりましてご審議いただきまして誠にありがとうございます。

より具体的なお指摘をいただきましたことに心より感謝申し上げます。これによって我々の計画はより深まっていくものと信じてございますので、引き続きお指摘のほどよろしく願い申し上げます、挨拶に代えさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

○泉谷企画部次長兼まちづくり課長

ありがとうございました。

本日の審議会はこれで終了となります。

長時間にわたりありがとうございました。

(15時50分終了)